

サクセスストーリー 事例報告

ライオンズクラブ国際協会 337-A地区 3R-1Z

(中間)ライオンズクラブ

会 長 L (武田 康裕)

サクセスストーリー

※経過報告

結成 55 周年を迎えた 1995 年頃から 100 名近くあった会員数が急激に減り、昨年 7 月時点では 40 名になった。当然ながら、事業費の切迫、経費の節減、登録料をはじめ諸出費の削減となり、このままでは、事業の展開が難しいということになりました。

それでも数年間は若干名の新会員の入会もありましたが、必然的に起こった現象は、ベテラン層と若手会員の考え方のズレでした。

口に出しての衝突はないのですが、次第に例会や事業参加に現象が現れました。

※一念発起

奇しくも今期の会長に就任した L. 大村 秀三 (1995 年 7 月入会) は、一番苦しい局面でした。ここに L. 大村 秀三からのメッセージがありますので紹介します。

第二副会長から 2 年後には、会長になる可能性があるのですが、その時から会長に就任してから、どのようなアクティビティをするかを考えると、今の中間ライオンズクラブでは、予算が少ないと思い、会員増強をする決意しました。

そのためには、どうすればよいかを考え、他団体との交流に積極的に参加をしました。そうすると 2 年も経つと同じような考えを持つ方や、社会貢献やボランティア活動をやっている方に出会い、お誘いをし、入会してもらうことになりました。

※今後の課題

中間ライオンズクラブは今年度が終わると 60 周年を迎えます。更に飛躍をするためにはまだ、たくさんの課題が残っています。

事業の掘り下げも大切ですが、会員の年齢層が 70 代前後と 50 代前後が山をなし、その中間層が谷となる…つまり考え方の違いをどのように上手くコントロールしていくかが大きな課題です。

ライオンズクラブに限らず、多くのメンバーの意見の集大成の上に成り立つ社会ですから、クラブを挙げて、地域社会を挙げて、みんなで取り組んでいきたいと思えます。